第 38 期　NPO 法人富士見市民大学
開講式・講演会　及び交流会　鶴瀬公民館

平成 27 年 6 月 6 日(土)　午後 1 時 30 分から 3 時 30 分

「キラリ☆ふじみの夢」　キラリふじみ館長　松井憲太郎氏

第 38 期 NPO 法人富士見市民大学の開講式が鶴瀬公民館で開かれました。

多数の受講生が参加され、小山健次郎理事長の挨拶は開講式への参加へのお礼に始まり、「市民大学の講座で学んでいただき、その知識を生かして地域活動をしていただくよう期待をしています」との言葉で結ばれました。

森元　州教育長からは第 38 期を迎える市民大学へのお祝い、受講生の皆様の好奇心と講座を受講する積極的な生き方へのエールと市民大学スタッフへの励ましをいただきました。

狐塚事務局長のオリエンテーションから、今期の講座も体を動かす野外活動の講座「自然塾、木と私たち、親子で野遊び、コスモス街道へのボランティア参加お願い」など、知識を深める講座「行財政講座、歴史講座など」、地域の活動への支援、受講生の親睦のためのバス旅行などの説明がありました。最後に瀬戸副理事長から各講座の担当理事の紹介がありました。

〇記念講演は、キラリふじみ館長の松井憲太郎氏に「キラリふじみの夢」と題して講演していただきました。

富士見市の生い立ちから始まり、富士見市の魅力を地域で生活する人の優れた見識などに接して知り得た地域の生産活動と芸術を結びつけて、キラリの活動を拡げているとの説明がありました。 7月に開催するサーカス・バザールはサーカスや大道芸が館内いたるところで観ることができ、「地産地消」の食べ物や工芸品の展示販売で賑わいます。

○交流会は「いききき活動室」に移動

し、キラリ館長松井氏にも参加していただき、佐藤鶴瀬公民館長の乾杯で始まりました。歓談後は皆様に簡単な自己紹介をしていただきました。今回は始めて大学を受講される方も多数ご参加いただき、なごやかな雰囲気で楽しい時間を過ごしました。

以下　**記念講演資料『きらり☆ふじみの夢』**　配布資料抜粋を掲載します。

富士見市民文化会館

キラリふじみの夢

地域づくりの拠点となる日

1

Ⅰ．人と芸術、社会と芸術の関係を考えてみる

人間は模倣＝芸術を通じて、
文化を育み、文明を形成しきた

1．ひとりの人間として文化を身につける

人は母の言葉（母語）をまね（模倣・再現）しながら言語を習得する。
遊戯を通じて、社会的な役割や慣習を身につける。

2．人類の文明を創造する

人は共同体の中で、芸術を通じて文化や文明を築き上げてきた。

鶴見俊輔『限界芸術論』より

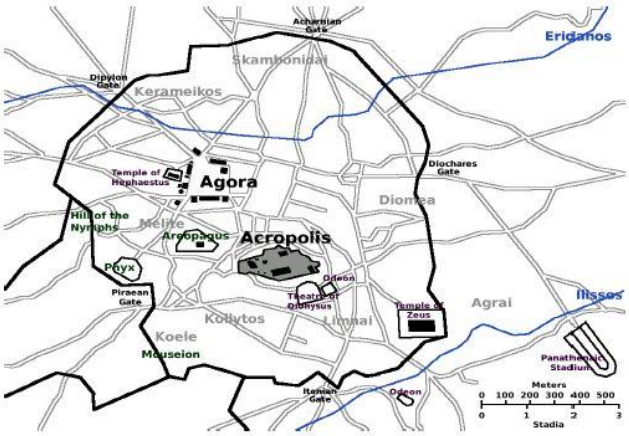
11

洞窟壁画

3万2千年前、後期旧石器時代の人間が、自然を模した壁画芸術を生んだ。アルタミラやショーベなどの洞窟内の壁画の前では、なんらかの祭儀が行なわれたと考えられている。

古代ギリシアのポリス

古代の都市国家を構成する重要な三つのインフラ
①アゴラ（広場）＝政治　②劇場＝芸術　③神殿＝宗教



芸術の社会的な役割・性格の変化①

鶴見俊輔『限界芸術論』にそって考えてみると…

…芸術は宗教的な祭儀とともに誕生

→演劇、美術、音楽などの芸術は「限界芸術」的なものとして登場する

→観衆と作者・演者は分かれていない

→民衆自身が生活や労働の中で創り、演じ、楽しむ

→寺社や宮廷の中では、芸術は儀式を通じ様式化する

→現在も各地で祭りなどとして存在する

芸術の社会的な役割・性格の変化②

ルネッサンス（中世）以降、宮廷や寺社の中で儀式化された芸術は徐々に社会に解き放たれていく。
一方で、芸術は世俗的権力と結びついていく。

→「大衆芸術」の誕生（日本では能狂言、歌舞伎、茶道等）

→専門家・プロと観衆・アマチュアの分離が始まる

→他方で、プロとアマチュアが未分化な状態も現出

→武家政権の能楽、絶対王政下のバレエなど、芸術の特権階層化もすすむ

芸術の社会的な役割・性格の変化③

近代以降、芸術は芸術そのものとして独立して存在するようになる。

→「純粋芸術」の登場

→作者、演者と聴衆、観客の完全な分離
すなわち芸術を鑑賞する鑑賞者の誕生

⇒ 現在の文化施設のプログラムは「純粋芸術」や「大衆芸術」が中心。

⇒「限界芸術」的な芸術活動のあり様も視野に入れて事業を発想するのは有効ではないか？

⇒ 田中泯氏の〈踊り〉の考え方。

民衆（限界）芸術とコミュニティの結びつき

民衆芸術、大衆芸術、純粋芸術は現代では共存するが、なかでも民衆芸術はコミュニティと強い結びつきを保っている…

◎平田オリザさんの女川町の獅子舞（獅子振り）の話

演劇の芸術としてのチカラ

1. 市民が水平な関係で人間の生き方を考えることができる。

2. 観客が演劇作品を成り立たせる。→舞台と観客の一体化
→舞台の価値を創造

3. 特異な個人の生き方に普遍的な価値を見出す。
→ 『ハムレット』という作品

Ⅱ. 富士見市という＜まち＞

富士見市の文化状況①

2011年3月「文化芸術振興条例を考えるシンポジウム」
藤野一夫氏講演より

1. 「農村型コミュニティ」と「都市型コミュニティ」のバランス

2. 「生産のコミュニティ」と「生活のコミュニティ」
「空間（地域）コミュニティ」と「時間（テーマ）コミュニティ」
⇓
コミュニティの集列体 ／ 連合体

富士見市の文化状況②

3．地域の文化の分裂、衰退

富士見市だけでなく全国で生まれている状況として…

・世代、職業ごとに多様化する生活文化

・メディアの発達等の影響による地域文化の衰退

・文化（化した）産業による生活文化の商品化と流通

⇓

自らの生活文化を保持し、築きあげることの困難さが生れている

新しい広場としての公立劇場

⇒市民の一人ひとりが、アイデンティティを発見できる場所へ

⇒市民がコミュニティの文化を発見し、創造し、共有するための場所へ

⇒市民同士が出会い、交流し、そこで育まれる多様な文化が市民生活をさらに豊かなものとする場所へ

Ⅲ. キラリふじみの主催事業

芸術監督とアソシエイト・アーティストの新体制

2011年より芸術監督とアソシエイト・アーティストによる、市民の文化財としての舞台芸術作品＝レパートリーの創造活動を開始。

■芸術監督
多田淳之介（演出家）

■アソシエイト・アーティスト
田中泯（舞踊家）
矢野誠（音楽家）
永井愛（劇作家・演出家）
白神ももこ（舞踊家）
田上豊（劇作家・演出家）

活動の三つの流れ

①芸術監督とアソシエイトアーティストが繰り広げる多様なレパートリーの創造活動

②芸術監督とアソシエイトアーティストが市民と協働で創造する活動

③市民同士が交流・協働し、多様な文化を育む活動

Ⅳ. 市民と協働する活動

サーカスバザール

第1回2012年7月

“ひと・アート・コミュニティ”が融合したら、地域に新しい人々の出会いの場が生まれる。

「地産地消」を合言葉に、市内の農作物や特産品をあつかうバザールの中で、サーカスや大道芸の芸人たちが多彩なパフォーマンスを繰り広げる。

シンポジウム
「富士見の農業～一粒の種から見えること」①

2014年12月20日、マルチホールにて開催。

〈パネリスト〉
新井 則幸（富士見市農研団体連絡協議会副会長）
小川 知子（どんぐり小屋主宰） 関野 幸生（関野農園代表）
時田 裕（JA牛部会会長） 成田 大治郎（3552syokudoオーナー）

シンポジウム
「富士見の農業～一粒の種から見えること」③

富士見ブランドの創造発信

シンポジウムでは農業者から、今後キラリふじみに具体的に期待することとして、農産品や農業関連の活動を、富士見の特産ブランドとしてプロデュースし、それを全国にむけて発信する仕事であるということが発言された。

今後の活動プラン①

⇒富士見市の人や風土が長い歴史のなかで育んできた文化的な資源や人材を発掘し、それをオリジナルの地域ブランドとして創造し、発信する。

・平成27年度は、翌年度以降を目途とした地域オリジナルのブランド開発のため、文化資源や人材の掘り起しのリサーチを青森県で活動するTeco LLC.と協同して行う。

今後の活動プラン②

⇒市内の文化的な資源を活用することで、市民同士の交流を活発化させ、そこから生まれる多様な活動が、市民生活をより豊かなものにするためのプログラムの開発。

・難波田城公園と水子貝塚公園の資料館と情報交換や交流を始め、それぞれのプログラムの参加者の交流を促進するなどしながら、3館が連動したイベントの共同開催などを行う。

・市民劇の活動の本格的な展開

・まちのドキュメンタリー映像づくり

今後の活動プラン③

⇒青少年が健やかに人格形成できるような地域の文化的な環境づくりをサポートする。

・そのための方法論の探求と市内で活動する人材のネットワークづくりを目指して、平成27年度には“子ども・地域・文化芸術”をテーマとするフォーラムを市内の関係者を集めて開催する。

キラリふじみの夢

◎富士見市の文化資源を発掘しながら、それをもとにした創造・普及活動を展開していくことで…

◎文化会館の活動が、文化的多様性に富んだ富士見のまちそのものを表現できるようになり、まず市民がそれを実感し、全国に富士見ブランドを発信する…

40

開講式にご参加いただいた受講生の皆様、及び教育長、鶴瀬公民館館長、

講演して頂いたキラリふじみ館長の皆様、おかげを持ちまして無事終了しました。

誠にありがとうございました。

富士見市民大学　スタッフ一同